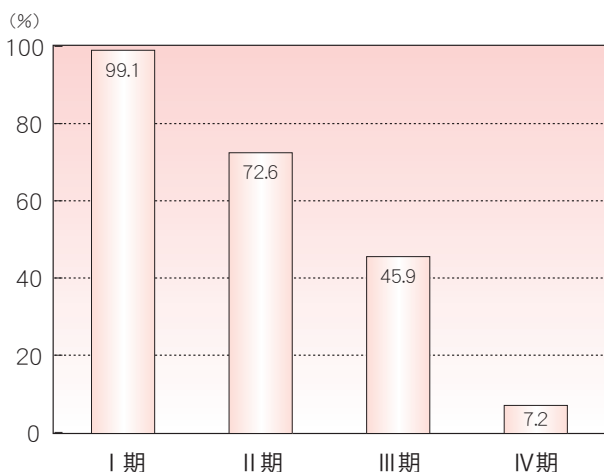


早く見つければ治療が容易

がんの症状の進行度は、病期（ステージともいう）という言葉で表します。胃がんであれば、胃の壁の中にどれぐらいの深さまで達しているか、リンパ節や他の臓器に転移しているかどうか等の程度によって4段階に分かれます。

病期は、数字が大きくなるほど症状が進んでいることを示します。Ⅰ期、Ⅱ期という早い段階で病巣が見つかれば治療は容易で、ほとんどが治癒すると言っていいでしょう。治療成果の目安となる5年生存率も、他の病期と比べて、きわめて高くなっています。

胃がんの病期5年生存率



全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年間生存率(1997-2000)
= (財)がん研究振興財団がんの統計'08より

がんは知らないうちに発生し、一定の大きさにならないと症状が現れません。自覚症状が出たときには、かなり進行している可能性があります。がんの種類にもよりますが、2 cm以上の大きさになると急激に大きくなり、危険が増すといわれています。

がんの診断、治療法は急速に進歩しています。初期のうちに見つければ、治る確率は飛躍的に上がり、完全に治すことも可能です。

だからこそ、早い段階で発見するために、定期的な検診を受けることが大切なのです。

早期発見の効果

がんを早く見つけ、早期に治療ができれば、それだけメリットがあります。

①手術も簡単にすみます。

例えば、乳がんなら、乳房を残す手術が可能です。早期の胃がんなら、お腹を切ることなく、内視鏡でがんの部分を切除することができます。

②放射線治療、薬剤治療など治療期間が短くてすみます。

③入院日数が短くてすみます。

④入院日数が短ければ、経済的負担も少なくてすみます。

⑤治療後の日常生活にも影響が少なくてすみます。

⑥家族への負担も少なく、職場への復帰も早くできます。